

## ～地下鉄3号線開通に伴う生活の変化～

下関市総合政策部国際課  
(青島市派遣職員)  
和木田 真功

今回のテーマは、昨年末に開通した地下鉄3号線についてです。開通に伴う生活の変化や実際に乗車した際の様子などをご紹介します。

### 1. 青島の地下鉄の開通状況

まず初めに、現在の青島の地下鉄の開通状況からご説明します。昨年末に青島空港付近の青島北駅から旧市街地付近の青島駅まで、青島を北から南へ縦断するような地下鉄3号線が開通しました。2017年末には青島の中心地を横断する2号線と、北東へ延びる11号線が開通予定です。中心地以外にも各地で地下鉄工事が進められており、完成後の路線予想図を見ると青島全体を網羅する、その壮大な計画に驚かされます。路線は1号線から16号線まであり、2020年までには市内を網羅する主要路線が開通予定です。



▲地下鉄3号線と2号線路線図

### 2. 地下鉄乗車体験

地下鉄に乗車する際に、日本と大きく違う点は手荷物のX線検査が必要なことです。人が少ない時にはいいですが、ラッシュ時にはこの手荷物検査で時間を取られ、乗車予定の便に乗れないといった事態も生じます。ですので、ラッシュ時に地下鉄を利用する際は、時間に余裕をもって駅に着く必要があります。なお、乗車の際は、普段使用しているバスカードが利用可能で、また駅の券売機でチャージもできます。金額は移動距離によって決められ、現在乗車可能区間の最高額は5元(約85円)元/17円で計算)です。

さて、車内の様子ですが、座席シートはプラスチック製で少し硬く感じました。私が乗車した車両は普通のデザインでしたが、中には青島らしく海中にいるかのようなデザインや、八大関の紅葉などでデザインされた車両もあります。



▲手荷物検査の様子

### 3. 開通に伴う生活の変化

地下鉄開通に伴い、大いに期待されるのが「渋滞の緩和」です。青島日報の報道によると、開通から1か月で440万人余りの人が地下鉄を利用し、朝のラッシュ時の交通指数（渋滞指数もしくは運行指数とも言われ、1～10までの数値で5段階に分け渋滞のレベルを示す。）の平均値は開通前と比べ1.9%下降、夜は1.1%下降したと報じられました。実際に、私が地下鉄開通後のラッシュ時にバスに乗車した際の感覚も、開通前と比べ車の流れがよくなったように感じます。あくまで、3号線の開通のみですので、渋滞が大幅に改善されたというわけではないですが、今後、他の路線の開通に伴い、徐々に渋滞が緩和されていくことが期待されます。

地下鉄の魅力は、バスなどと異なり渋滞に巻き込まれる心配がなく、時間通りに到着できることであり、また、これまでバスで行くには不便だった場所も、地下鉄ができたことによりアクセスがよくなりました。加えて、観光客にとって、地下鉄はバスなどと比べ利用しやすい交通手段の一つであり、今後さらに青島観光が便利になることは間違いありません。